

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 鱒川小学校 学級数 4

## 視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 見つけ、求め、のびゆく児童生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

### 取組の概要

#### 1 取組のきっかけ

- ・小中併置校であり、小中の連携が非常にスムーズである。
- ・将来的にも、全学級複式学級が予想される。・個別支援を要する児童の割合が非常に高い。確かな学力を身に付けることをねらい、小中乗り入れによる指導体制をつくる。

#### 2 取組の位置付け

- ・新年度準備委員会・小学校部会・教務部・研究部が中心となり、教育課程の方向性を策定した。

#### 3 取組の方法

##### (1) 各教科等の指導体制

- ・算数と低学年国語については教頭・中学校教諭の協力による学年別指導の体制をとっている。
- ・4年生以上の理科・社会科では、転入生がある場合の補充に配慮する。
- ・音楽、図工、家庭科、体育、外国語活動については専門性を生かし、乗り入れを含む体制を組む。
- ・日常の情報交換とともに、成果と課題のとりまとめを継続的に行う。(教務部)

##### (2) 個別指導計画シートの作成と更新

- ・個々の自己目標、実態把握、長期目標、短期目標及び指導の手立てを作成し、短期目標及び指導の手立ては月1回程度見直し、更新していく。(研究部)

##### (3) 鱒川タイムの実施

- ・全校一斉の鱒川タイム（補充学習）の実施により、学力の向上を図るとともに、成果と課題を情報交換し、指導方法の向上と学力向上を図る。(研究部)
- ・家庭学習の定着化のために、家庭学習の手引きによる指導や、記録表を教室掲示し、意欲を持続させる。

### 取組の成果と課題等

#### ○ 取組の成果

- (1) 各教科等の指導体制については、中学校からの乗り入れ、教頭の授業等により、計画通りに実施している。  
(成果) 複式学級における学年別指導・児童特性をふまえた個別的指導・専門性を生かした指導を可能な限り行った。
- (2) 研究部の推進により、月1回程度に設定した短期目標の評価と更新をしている。  
(成果) 一定のスパンで見直しをすることにより、成果や成長を見落とすこと無く取り上げ、新たな目標を設定することにつながることができた。
- (3) 予定通り2週に1回程度、40分間の鱒川タイム（補充学習）を、統一テストをもとに学習内容を設定して実施している。  
(成果) 課題にあったプリントを用意し、スモールステップを取り入れた個別学習により、力がついてきたことが認められる。第2回の統一テストでも成果が認められた。

#### ○ 教育課程検証の方法

- (1) 内部評価項目「小中9年間の学びと発達を見通した教育課程の創造」において、乗り入れに関して高評価をいただき、来年度、再来年度の学級編成を見こんだ見通しを計画することとなっている。
- (2) 全教員へのアンケートをもとに11月に中間のまとめを行って成果と課題を洗い出している。これに基づいた実践をもとに、3学期に年間のまとめを行う。